

# 第1学年 生き方「障がいのある人と共に生きる」

## 1 人権教育として育てたい三つの力

認識力	自己啓発力	行動力
◎障がいのある人々への差別や偏見を見抜く力 ◎人権課題について正しく理解する力	◎障がいのある人もない人も誰もが生き生きとした人生を送ることのできる共生社会を実現するための当事者であると自覚し、先入観や偏見を改めようとする力	◎障がいのある人々と共に、互いに尊重し合い、対等に関わる共生社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとする力

## 2 総合的な学習の時間としての単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
障がいのある人を取り巻く様々なバリアや障がいのある人たちが抱える生きにくさなどが分かり、合理的配慮について理解することができる。	仲間との語りや福祉体験を通して、障がいのある人に対して偏った見方をしている自分に気付き、共生社会を実現するために自分たちがどのように行動するとよいかを多面的・多角的に考察することができる。	自分の心の弱さを乗り越えながら、障がいの有無に関係なく、互いの人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとしている。

## 3 総合的な学習の時間としての単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①障がいのある人に関わる差別の現状を理解している。 ②障がいのある人への差別や偏見の現状について、タブレット端末や資料を用いながら、情報を収集している。 ③障がいのある人と自分との関わりについて理解し、自らの行為が共生社会の実現に深く関わっていることに気付いている。	①障がいのある人への差別の現状や困り感から課題を設定し、課題解決への見通しをもっている。 ②障がいのある人の人権課題の正しい理解に必要な情報を、目的に応じて適切に収集している。 ③差別や偏見を生み出しているのは人間の心の弱さであることを、現実と理想の対比から考察している。 ④心の弱さを乗り越えようとしている自分を踏まえて、相手意識や目的意識に応じて、分かりやすく工夫し、表現している。	①異なる仲間の意見を受け入れながら、自分自身の心の弱さをみつめ直している。 ②過去の経験や自分とは異なる仲間の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③自分の生き方をみつめ直し、障がいのある人の人権課題の解決に進んで取り組もうとしている。

## 4 単元指導計画（全9時間）

時	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物 ★葛藤を生み出す手立て ◎語らいを生み出す手立て	知 技	思 判 表	主 体
1	障がいのある人となない人の違いについて考えることを通して、障がいがある、「ある」、「ない」によって、人を違った見方している自分に気付き、障がいのある人について学ぶことの意義や単元の学習の見通しをもつことができる。（認識力）	①成田選手の金メダル獲得時の映像（パラリンピック）を見て、感想を交流する。【全体】 ②成田選手の障がいの紹介の映像を見て、感想を交流する。【全体】 <u>課題：障がいのある人」と「ない人」への見方について考えよう</u> ③障がいがあることを知る前後で、感想がどのように変わったのかをワークシートに記入する。【個人】 ④グループで意見交流をしてホワイトボードにまとめる。【グループ】 ⑤全体交流を通して、偏見や差別につながる意識について考える。【全体】 ⑥アンケートの記入をする。【個人】 ⑦本時の感想を書く。【個人】	○映像資料①「成田選手のパラリンピック金メダル動画（1：59）」 ○映像資料②「成田選手の障がいの紹介動画（2：00）」 ・動画の視聴後、感想の変化「障がいがあるのにすごい」という意見を取り上げることにより、障がいのある人に対して、知らず知らずのうちに偏見や差別心をもってしまっていることに気付かせる。 ・事前アンケートとワークシートを回収後、障がいのある人に対する生徒の意識を把握し、生徒の心の変容を捉えていく。 ○ワークシート、ホワイトボード		①	
2	障がいは様々な種類があることが分かり、それによって生じる生活する上での不便さが存在することに気付く、障がいのある人に対する配慮が必要であることが分かる。（認識力）	①障がいの種類や現状をワークシートに記入しながら確認する。【個人】⇒【全体】 <u>課題：障がいのある人は、生活する上で、不便に感じることはあるだろうか</u> ②障がいのある人が感じる不便さにはどのようなものがあるのかをワークシートに記入し、交流する。【個人】⇒【グループ】 ③映像資料の3つの事例（車いす・盲導犬・聴覚障がい）から、障がいのある人が感じる不便さを考え、ワークシートに記入する。【個人】 ④障がいのある人の生きにくさについて交流する。【グループ】⇒【全体】 ⑤本時の感想を書く。【個人】	○映像資料③「障害のある人と人権～誰もが住みよい社会をつくるために～動画（2：59）」（岐阜市人権啓発センター所蔵） ・①では、障がいの種類や障がいのある人の数を知ること、身近に存在していることに気付かせる。 ・②では、どのようなことが障がいのある人の生きにくさにつながるのかを想像させる。 ・④では、②で考えていたこと以外に、気が付かないところで不自由さを感じていることや、社会全体として配慮が必要であることに気付かせる。 ○ワークシート、ホワイトボード	①	②	
3	障がいのある人の思いを知ることを通して、自分の思いとのズレがあることに気付く、相手の思いを理解して行動することが大切だと分かる。（自己啓発力）	①前時の授業を振り返り、「障がいのある人の生きにくさ」をもとに、障がいのある人の思いについて考える。【全体】 <u>課題：障がいのある人は、どんな思いで生活しているのかを考えよう</u> ②映像資料を視聴し、障がいのある人と周りの人の思いにズレがあることに気付く。【全体】 ③障がいのある人が周りの人に分かってほしい思いについて考え、全体で交流する。【グループ】⇒【全体】 ④障がいのある人が思っていることについて気付いたことを交流する。【全体】 ⑤本時の感想を書く。【個人】 ⑥次時に考える映像資料を視聴する。【全体】	○映像資料④人権啓発動画「『誰か』のことじゃない」障害のある人編（2：32）」（岐阜市人権啓発センター所蔵） ・②では、車いすの人が他の社員と同じように会議に参加したいと思う気持ちに気付かせ、障がいのある人の思いについて考えることが重要であることに気付かせる。 ○資料「障がいのある当事者からのメッセージ」（内閣府2023） ○ワークシート、ホワイトボード ・③で考えたことと④で考えたことにズレがあることに気付かせる。 ○映像資料⑥「風の匂い」（～9：40）」（岐阜市人権啓発センター所蔵）	③	③	
4	歩に関わる正人の気持ちを考える活動を通して、障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気付く、自分の中にある差別心を変えていきたいと自分を見つめ直すことができる。（自己啓発力）	①前時を振り返り、課題につなげる。【全体】 ②映像資料「風の匂い」の登場人物や問題の背景を確認する。【全体】 ③正人の複雑な表情を比較する。【全体】 <u>課題：正人は歩に対してどんな思いをもっているのだろうか</u> ④正人が歩に対して、どのような気持ちをもって接していたかについて、正人の表情をもとに考える。【全体】 ⑤正人の歩に対する態度についての感想を交流する。【全体】 ⑥正人と自分の心を比べながら交流する。【全体】 ⑦本時の感想を書く。【個人】	・④では、「こんな正人について、あなたはどう思うだろうか」と問うことで、正人の気持ちに共感させる一方、表情や態度に出すことはよくないという意識を引き出す。 ★葛藤を生み出す指導 「自分が正人の立場ならどうだろう。」と問うことで、自分の中にも正人と同じく障がいのある人に対する偏見や差別といった心の弱さがあるかもしれないことに気付かせる。 ◎語らいを生み出す指導 葛藤を生み出す指導で生じた「理想」と「現実」のズレについて考えたことを交流させることで、さらに自己を深くみつめ直すことにつなげる。 ○ワークシート、ホワイトボード		③	①

5	障がいのある人がどんなことに困っているのかを考えることを通して、障がいのある人が安心して生活できる社会にしたいために、自分にできることを考えることができる。 (自己啓発)	①歩を取り巻く状況を確認し、本時の課題につなげる。【全体】 課題：障がいのある人が安心して私たちが共に生きる社会にしていきたいために、自分には何ができるのだろう ②歩が安心して働くことができるようにするために、周りの人がどんなことをするとよいかを考えたことをワークシートに記入する。【個人】 ③記入した内容を交流する。【全体】 ④映像資料を視聴する。【全体】 ⑤正人や周りの人が歩にした配慮について交流する。【全体】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	・前時の学習を振り返り、課題につなげる。 ・問題が起こった時の職場の人たちの気持ちや対応の仕方について、周囲の一人としての配慮について考えさせる。 ・障がいのある人が仕事にやりがいを持っていることや社会の一員として仕事をしていることを理解させ、歩の特性を理解することや配慮することが大切であることに気付かせる。 ・「～したほうがよい」という表面的な考えに流れないように、自分がその場にいたらどうすることができるか、自分のこととして考えさせる。 ○映像資料④「風の匂い (17:30～33:00)」 ○ワークシート、ホワイトボード			③	
6	体験学習 (車いす体験、アイマスクを着用した白杖体験)						
7	福祉体験を通して、障がいのある人の困り感を実感するとともに、支援の在り方について考え、行動することができる。(行動力)					②	
8	誰もが互いに尊重し合い、心のバリアを克服しようとする思いや、よりよい社会を築いていこうとする考えをもつことができる。(行動力)	課題：学習を振り返り、考えたことを作文にまとめよう ①これまでの学習を振り返り、考えたことを作文にまとめる。【個人】	・分かったことだけでなく、自分が行動につなげていきたいことを書くよう指導する。 ○作文用紙			③	②
9	自分の思いを整理し、相手を意識して、分かりやすく発表することができる。(行動力)	課題：自分の思いや考えを伝えよう ①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③学習のまとめをする。【全体】 ④感想を記入し、仲間に伝える。【グループ】	・発表後に、口頭で感想を伝えさせる。また、感想用紙を授業後に切り取り、渡すことができるようにする。 ・心の変容があった生徒を事前に抽出し、その思いを全体で共有する。 ○感想用紙			③	③

5 本時について (4/9)

【ねらい】 歩に関わる正人の気持ちを考える活動を通して、障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気づき、自分の中にある差別心を変えていきたいと自分をみつめ直すことができる。

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点 ★葛藤を生み出す指導 ◎語らいを生み出す指導
導入	①前時の振り返りをする。【全体】 ②登場人物や問題の背景を確認する。【全体】 □森野 歩 (知的障がい) ・しゃべり方が特徴的 ・こだわりが強い ・自分の担当の仕事に一生懸命に取り組める ・言われたことをそのまま受け止めて行動する ・急な変更に対する対応が苦手 □渡辺 正人 (売り場主任) ・歩の仕事担当の主任 ・歩とは幼なじみ ③正人の複雑な表情について、動画(3:00～9:40)を見直し、正人が歩と会話している表情と、その他の登場人物と会話している表情をペーパーストを使用して見比べる。【全体】	①前時を振り返り、障がいのある人の気持ちについて確認する。 ③動画を視聴する際に、焦点を当てる場面について補足説明する。そして、ペーパーストで表情を比較することで、歩を変な目で見てしまう正人に気付かせる。 ・正人が歩を紹介された時に驚く表情 ・歩の行動を見た後、帰宅する前の表情
展開	正人は歩に対してどんな思いをもっていたのだろう ④正人の歩に対する気持ちについて考える。【全体】 「なぜ正人は歩に対して、こんな表情をしたのだろうか。」 ・面倒なことになりそう。(不安) ・本当は一緒に働きたくない。(自分勝手) ・できるだけ関わりたい。(偏見) ⑤正人の歩に対する態度についての感想を交流する。【全体】 「こんな正人についてどう思うか。」 ・正人の態度や行動はダメなことが多すぎる。 ・面倒くさそうにするのはよくない。 ・歩を支えるべきだ。 ・歩のことを避けてはいけない。 ・歩を避けるのはおかしい。 ⑥正人と自分の心を比べながら交流する。【個人】⇒【班】⇒【全体】 「自分が正人の立場ならどうかな？」 ・だめだと分かっているでも顔に出してしまうかもしれない。 ・歩は周囲の空気を読めないから、正人が変な顔をする気持ちも分かるような気がする。(偏見) ・正人のことをダメだと思っていたけれど、周りの目を気にするあまり同じようなことをしてしまう自分がいる。(世間体) ・正人のことをひどいと思っていたのに、もし自分がそういう立場だったら、自分も正人と同じようにひどい態度をとってしまうかもしれない。 ・自分の中に偏見や世間体を気にする気持ちがあることに気付いた。この偏見や世間体を気にする気持ちが差別につながるのだから、こういった気持ちをなくしていきたい。	④正人の複雑そうな表情の裏側にある歩に対する気持ちを考えることを通して、障がいのある歩に対する偏見や差別心に気付かせる。 「正人は歩と幼馴染みであることを歩や周囲の人になぜ伝えようとしなかったのだろうか。」 「正人は歩のことをどう思っているのだろうか。」 ⑤正人の内面にある歩に対する不快な気持ちを明確にすることで、理想の姿を想起させる。また、理想の掲示物を位置付けることにより、⑥で考える現実とのズレを明確にする。 ⑥掲示物を活用しながら、「自分だったらどうするのか」という体験を引き出す発問をし、より現実的かつ自分事として考えられるようにする(身の回りにおける差別事象に触れる)。その際に、現実の掲示物を位置付け、本時における現実の姿を確認する。 「障がいの有無に関係なく、予期せぬ行動に対して表情や態度に出してしまうことはない？」 「正人をよくないと言っていたけれど、いざ自分の立場になるとよくない行動をとってしまうのはなぜだろうか。」 「これってこのままでよいのだろうか。」 ★葛藤を生み出す指導 自分も正人と同じ態度をとってしまうかもしれないという「現実」に気付かせ、正人に感じた不快な気持ちが自分の中にもあることに気付かせることで、差別につながる意識を自覚させる。 ◎語らいを生み出す指導 葛藤を生み出す指導で生じた「理想」と「現実」のズレについて考えたことを交流し、さらに自己を深くみつめ直すことにつなげる。
終末	⑦本時の感想を書く。【個人】 歩に対して冷たい行動をとってしまう正人はひどいと思っていたけれど、自分の中にも正人と同じ気持ちがあるかもしれないと思った。相手のことを考えて行動できる自分になることで、表情に出してしまうことや目配せをしてしまうといった、障がいのある人や周りの人とは違うことへの差別する気持ちをなくしていきたい。 ⑧本時のまとめをする。【全体】	⑦「正人の姿を良くないと思うのに、自分に置き換えると、なぜ自分も同じような態度をとってしまうのか。」を本時の感想に書かせる。 評価規準【思考・判断・表現】 障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気づき、自分の中にある差別心を変えていきたいと自分をみつめ直している。 ⑧自分をみつめ、変わりたいという気持ちが表れている生徒の振り返りを紹介する。